

ROTARY CLUB OF NAGOYA MEINAN WEEKLY REPORT 2012-2013



奉仕を通じて

平和を

田中作次

2012-13年度
国際ロータリー会長

名古屋名南ロータリークラブ

■承認 / 1991年3月8日 ■例会日 / 火曜日・PM6:30 ■例会場 / 名古屋マリオットアソシアホテル
■会長 / 宮崎 良一 ■幹事 / 坂本 晃 ■会報・雑誌・広報委員長 / 東山 直史
■事務局 / 〒450-6002 名古屋市中村区名駅1丁目1番4号 名古屋マリオットアソシアホテル 2202号
TEL.052-586-2043 FAX.052-586-2054

URL <http://www.meinan-rotary.com> E-mail info@meinan-rotary.com

第1031回

2013年1月15日(火) 晴 第25回

～ ロータリー理解推進月間～

斉唱 君が代、奉仕の理想
出席 会員55名(出席率算入人数49名)
出席43名 出席率87.76%
前々回補填率94.12%(12月18日分)

1月の誕生日

1日 榊原 和美さん 1日 浅井 浩さん
2日 牧野 好弘さん 3日 佐々木元彦さん
14日 田中 一雄さん 22日 三島多恵子さん

配偶者誕生日

2日 加藤 尚子さん 2日 牧野恵美子さん
4日 細井 篤子さん 17日 小山 央子さん
27日 大平 剛さん

1月の結婚記念日

17日 加藤 宜之さん 18日 中村 勝さん

会長あいさつ

会長 宮崎 良一さん

皆さま、こんばんは。

前回は、新年ゆったり例会ということで田原パシフィックRCとの合同例会を致しました。皆さま喜んでお帰りになりました。これまで合同例会というのは、RCの成立の経過から2RCまたは4RCがありますが、いずれも一門という形で合同例会を行っておりました。海外の姉妹RCとの例会以外では、新しい形での例会ということで新しい縁が出来て喜んでおります。またよろしくお願ひします。



新春にあたりまして、また皆さまにお願いをしておきたいと思っております。当クラブの基盤を更に強化していくためには、これまであまり強調して参りませんでしたが、会員の増強が大切になってきます。会員が少しずつ減っておりますので是非とも皆さまのご協力で会員増強をお願いしたいと思います。

幹事報告

幹事 坂本 晃さん

1. 伊藤博昭さんと宮本浩史さんより健康上の理由で

退会届けが出ておりましたが承認となりました。

2. 1月25日に愛知県美術館で日展が開かれます。無料の入場券が2枚と割引券が20枚ほどありますので、観賞されたい方は事務局までお願いします。

ニコボックス

本日合計 22,000円 累計 704,700円

喜寿のお祝い

佐々木元彦さん



米山功労者感謝状授与

■米山記念奨学委員会 委員長 三浦 和人さん
(米山功労者)

宮崎 良一さん 木下 福郎さん 榊原 和美さん
大橋さなえさん 川辺 清次さん 佐々木元彦さん
三浦 和人さん



アンチエイジングエクササイズ

中村 勝さん

児島 徳和さん



皆さま、こんばんは。今年度、会場運営・プログラム委員長を仰せつかっております児島でございます。新年の行事で会員卓話をいろいろな方をお願いしましたが、すべての方に断られ、自らが卓話をするようになりました。

今年度の会員卓話の方針は、会長方針にもありますように、例会の充実ということで出来るだけ旬の話題をとということになっています。皆さまのお仕事のことや自分の業界のこと、自分の会社のことなどをお話ししていただいています。私は何度も自分のお仕事のことをお話ししていますので、今回は自分なりのロータリー感をまとめる意味もあって、お話をさせていただこうと思っています。ただ、ロータリーの話ばかりではなく、あくまで仕事を通じてや個人的な経験を踏まえて、ロータリーが言わんとすることをすり合わせながらお話ししていきたいと思っています。

ロータリーの根幹といいますと、奉仕という言葉と親睦という言葉があります。ロータリーの根幹は、親睦と奉仕か、奉仕と親睦か、どちらでしょうか。実はロータリーのホームページを開くと奉仕と親睦となっています。どちらが先か後かという順番に重点があるかはわかりません。昔から商売は、Give and Take だとよく言います。ここ十数年見てみますとTake and Giveではないかと思っています。TakeできるならGiveするよというような風潮等が多いと感じております。やはりこれは英語でいうとGive and TakeでGiveが先にこないとTakeが後にこないというような意味合いではないかと思っています。これを日本語で言うと、出入りです。これは出すと入るという意味です。逆に入り出というのはいりません。やはり日本語の出入りという意味合いから見ますとGive and Takeが正しい順番だと思います。

ロータリーの場合、奉仕と親睦の順番がどの程度重要かはわかりませんが、ただロータリーのホームページでは、奉仕と親睦という順番になっております。ロータリーの中に標語がありますが、第一標語として“超我の奉仕”であり、第二標語として“最も奉仕するものは、最も報われる”とあります。紆余曲折しながら、5、60年前にやっとこれに落ち着いたようです。これは私がロータリーに入ってさすがだなと思ったことです。これは後で詳しく関連を言いますが、生き方の奥義ではないかと思っています。

私の仕事柄、会社の経営者の方といろいろな話をさせていただきます。特に将来にわたってのビジョンだったり、会社の現状のことだったり、公認会計士や税理士、弁護士とは違う次元で話をさせていただきます。やはり本音の部分で生きざまをお聞きすると名南RCの方々は、さすがだなと思う方ばかりです。やはり生き方が結果をもたらしているなとつくづく感じています。RCというのは、アメリカで出来て、英語圏に広がり、南米やアジア等々に広がっていったようですが、やはり中心は欧米ということになります。欧米の場合、“ノープレスオブリージュ” 富めるものの義務として寄付やチャリティー

をするというのが当然のように認識されているようです。逆に寄付やチャリティーをしないお金持ちはただのしみたれとして尊敬をされないとなっています。欧米のスポーツ選手や芸能人、映画スターは非常に多くの寄付を積極的にしています。欧米のお金持ちの寄付にまつわる法則が載っていましたので、ご紹介させていただきます。

一つ目は、“惜しみなく豊かな気持ちで与えなさい。与えたものは何倍、何十倍になってあなたに戻ってきます。これが富の増大法則です。”これは億万長者になられた方が言っておられた言葉です。大切なのはどれだけ与えたかではなく、与えることにどれだけ愛を注いだかということであるということで、非常にぐっとくる言葉だと思いました。次は有名な方で、去年長者番付で2位になったマイクロソフトのビル・ゲイツさんです。彼が考えているのは、“効果的な慈善活動を実現するには多くの時間と想像力が必要である”と言っています。それは一つのビジネスを興す場合に必要な目標とテクニックと同じ類のものだということで、まさしくロータリーのプロジェクトも彼の考えでなってきたのかなと思います。

億万長者の多くは、成功者となる前から少しずつ寄付をし続けていたとあります。額の多さではなく出来る範囲ですっとし続けていたということが統計的に非常に多いです。事業に関してですが、奉仕に関する事業は栄え、利益を主とする事業は衰えると載っていました。ちなみに今回億万長者といわれる方々を調べてみました。世界ナンバー1の方はメキシコのカルロス・スリムという総合企業の方です。メディアや石油関連などいろいろなことをしているオーナーで、総資産が5兆5千2百億円です。2位はビル・ゲイツで4兆8千8百億円。3位が投資家のウォーレン・バフェットで3兆5千4百億円。日本でトップは、ユニクロの柳井さんが8千億円です。ビル・ゲイツとウォーレン・バフェットの話の中で、慈善事業をするなら創造的なことがいいと言っている。アメリカには400人のビリオネアが存在します。その彼らが、財産の半分を生前にもしくは亡くなった時に寄付をするというギビングプレッジに登録をするというものです。昨年の9月の段階で、92名が署名したそうです。いわゆる富の循環といいますか、必要以上は残さないということだと思います。

そこでロータリアンとして奉仕というのがありますが、奉仕というと労働奉仕が頭に浮かんでしまっていて、ちょっと違うと思いました。また、古来日本には儒教が入ってきていますので、その中の善行や徳積という部分とロータリーが言わんとする奉仕が近いと個人的には思っております。どちらにしても、欧米の著名な人の言葉やロータリーの標語には、やった人にしかわからない、やってきた人にしかわからない言葉がそこには入っているなと感じました。さらに日本流で言いますと、徳積でもいわゆる表に現れない、表彰されない、陰徳積という方が日本のロータリアンにとって意識が高いのかなと感じます。その延長上で、ハワイや海外旅行に行きますと必ずあるDFSをよくご存じだと思います。この創業者のチャック・フーニーという方が、一代でDFSを築き上げました。この方が、実は1995年位に株の大半を売ってしまったようです。今は全く関与

されていないようで、実はこの方は資産の大半をお金が入ってくると寄付されていたようです。ただしそれは名前を出さずに無名でされていたそうです。金額がとてつもなく大きかったので、名前を出さずにはいられなくなり、今は名前が公になっているようです。やはり私たちは日本人なので、日本的・仏教的なものがいいと思い調べました。それはお釈迦様の“長者の万灯より、貧者の一灯”という言葉です。これは、聞かれたことがあると思いますが、長いので読ませていただきます。

約2600年前インドにナンダという貧しい女性がありました。毎日乞食をしながら命をつないでいたが、町の人々が釈迦に灯を寄進するのを見てわが身を嘆いた。しかしナンダは自分も灯を寄進させていただきたいと念じて乞食をしていると、一人の慈悲深い人から僅かなお金を恵まれました。彼女は早速油屋に走り、私にも油を分けて下さいと言いました。

しかし、それだけのお金では売れないと言われました。油屋の主人に何に使うのかと聞かれ、お釈迦様に灯をお布施したいというと、その貴い気持ちに感激した主人が油を分けてくれたので、ナンダは1つの灯を寄進できました。彼女の貧しい一灯は富者の万灯の中で赤々と燃えていた。

明け方になると、すべての火が消えてしまったのに、ナンダの一灯だけは輝き亘っていた。弟子の木蓮が消そうとするがどうしても消えない。お釈迦様は弟子たちにお前たちの力ではあの火を消すことはできない。水をそそごうとも燃え続けるであろう。なぜならば、海よりも広い貴い心からお布施されたものであるからだと言われたそうです。

大切なのは心だとお釈迦様は説かれております。皆さま企業経営者としてやられておりますのでご存知だと思いますが、企業メセナという言葉があります。企業の社会貢献活動ということですが、その一環として経団連では利益の1%を使うよう推奨されているそうです。

例えば、名南RCには関係している児童養護施設は多数あり、あしなが育英会など慈善団体の中では突出して貢献度が高いと思います。先ほどの額の問題ではありませんので、企業としてやられてはいかかかと思えます。最後に個人としてロータリーに入っている以上、ロータリアンとしてふさわしい活動をし、話す言葉、態度等も踏まえて奉仕の協力することによって親睦もどんどん深まると思っています。

先ほど宮崎会長から会員増強のお話がありました。我々40、50代は本当に少数派で、どんどん増えていかないといけないと思います。それには、ロータリーのよさを感じていただくことが会員増強につながっていくと思っています。

■ 1 月度理事会 議事録 ■

報告者 坂本 晃さん

日時 2013年1月15日(火) 17:00～

場所 名古屋マリオットアソシアホテル
17F『楓』

出席者 宮崎、加藤、浅井、白藤、坂本、
山本、入谷、鈴木、加藤、朝比、
川村、児島、大橋、東山

17名中14名参加

◎審議事項

一、退会届の件 <幹事 坂本 晃さん>
伊藤 博昭さん、宮本 浩史さん
健康上の理由により2012年12月31日付にて退会承認

◎協議事項

一、なし

◎報告事項

一、プログラムの件
<会場運営・プログラム委員長 児島 徳和さん>
2/5 会員卓話 安藤 修さん
2/26 会員卓話 川瀬 悟さん
3/5 委員会担当卓話(ローターアクト委員会)
担当 出田真太郎さん
3/12 未定

一、2/19 創立記念例会の件
<親睦活動・家族委員長 大橋さなえさん>
河文 予算1人当たり 飲物込12,000円
在籍 歴代会長より一言ずつごあいさつをいただく。

4/13 春の家族会の件

京都駅集合解散 松山閣本店にて昼食(マイクロバス送迎あり)

◎その他

一、4/17(水) 2RC 合同例会
東南 RCさんホストにより開催
場所:マリエカリヨン名古屋出雲殿
時間:例会18:10～18:30 懇親会18:30～20:00

※次回のご案内

2月5日(火) 17:00～
名古屋マリオットアソシアホテル
17F「パイン」

第1033回例会(1月29日)のご案内

自衛隊愛知地方協力本部3等陸佐
白田松男さんによる外部卓話